

**会員事業所景況実態調査令和2年7月～令和2年9月分集計結果**  
**調査依頼数:537 回答数94 回答割合:17.5%**

令和2年度3回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおりに報告いたします。  
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。  
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

**★DI値とは**

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。  
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

**【質問 A】 前年同時期と比較した7月～9月の景況**

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	7	27	60	94	▲56.4	▲59.3	2.9
	採算	5	38	51	94	▲48.9	▲48.8	▲0.1
	仕入単価	1	70	21	92	▲21.7	▲21.2	▲0.5
	従業員	16	57	20	93	▲4.3	4.7	9
	業況	5	36	53	94	▲51.1	▲57.0	5.9
	資金繰り	8	61	25	94	▲18.1	▲32.6	14.5
建設・建築業	売上	3	8	9	20	▲30.0	▲42.9	12.9
	採算	3	9	8	20	▲25.0	▲33.3	8.3
	仕入単価	0	16	3	19	▲15.8	▲28.6	12.8
	従業員	5	13	2	20	15.0	19.0	4
	業況	2	10	8	20	▲30.0	▲23.8	▲6.2
	資金繰り	4	12	4	20	0.0	▲23.8	23.8
製造業	売上	2	4	12	18	▲55.6	▲61.9	6.3
	採算	1	6	11	18	▲55.6	▲66.7	11.1
	仕入単価	0	14	4	18	▲22.2	▲23.8	1.6
	従業員	3	10	5	18	▲11.1	▲14.3	▲3.2
	業況	1	5	12	18	▲61.1	▲66.7	5.6
	資金繰り	0	12	6	18	▲33.3	▲47.6	14.3
卸・小売業	売上	1	4	14	19	▲68.4	▲64.3	▲4.1
	採算	1	6	12	19	▲57.9	▲42.9	▲15
	仕入単価	1	14	4	19	▲15.8	7.1	▲22.9
	従業員	3	12	4	19	▲5.3	14.3	19.6
	業況	1	6	12	19	▲57.9	▲78.6	20.7
	資金繰り	2	12	5	19	▲15.8	▲21.4	5.6
飲食・サービス業	売上	1	6	16	23	▲65.2	▲61.5	▲3.7
	採算	0	10	13	23	▲56.5	▲46.2	▲10.3
	仕入単価	0	16	7	23	▲30.4	▲30.8	0.4
	従業員	5	12	6	23	▲4.3	15.4	19.7
	業況	1	8	14	23	▲56.5	▲69.2	12.7
	資金繰り	2	14	7	23	▲21.7	▲38.5	16.8
不動産・その他	売上	0	5	9	14	▲64.3	▲70.6	6.3
	採算	0	7	7	14	▲50.0	▲52.9	2.9
	仕入単価	0	10	3	13	▲23.1	▲25.0	1.9
	従業員	0	10	3	13	▲23.1	▲5.9	17.2
	業況	0	7	7	14	▲50.0	▲58.8	8.8
	資金繰り	0	11	3	14	▲21.4	▲29.4	8

**(全体)**

採算、仕入単価以外は改善しており、特に資金繰りは10ポイント以上改善している。また、採算、仕入単価もほぼ増減がない。しかしながら、売上、業況は依然として▲50ポイント以上、採算も▲50ポイント近くと高くなっている。一方、従業員はマイナスに転じ建設業以外は人手不足感はなくなり人手過剰となっているが、これはこれで企業にとっては問題である。

**(建設・建築業)**

業況以外は改善しており、特に売上、仕入単価は10ポイント以上、資金繰りは20ポイント以上と大きく改善している。DI値も全体的に▲ポイントも低くなっている。一方、業況はわずかであるが、悪化している。また、従業員では、他業種は過剰となっているが、建設業は依然として不足が続いている。

**(製造業)**

従業員以外は改善しており、特に採算、資金繰りは10ポイント以上と大きく改善している。しかしながら、DI値は売上、採算で依然として▲50ポイント以上、業況で▲60ポイント以上と高くなっている。一方、従業員は悪化はしているものの、依然として人手過剰が続いている。

**(卸・小売業)**

従業員、業況、資金繰りは改善しており、従業員、業況は20ポイント前後改善している。しかしながら、業況は依然としてDI値が▲50ポイント以上と高くなっている。また、従業員も人手過剰に転じている。一方、売上、採算、仕入単価は悪化しており、特に仕入単価は20ポイント以上悪化し、マイナスに転じている。また、DI値は売上で▲60ポイント以上、採算で▲50ポイント以上と高くなっている。

**(飲食・サービス業)**

売上、採算以外は改善しており、従業員、業況、資金繰りは10ポイント以上改善している。しかしながら、依然として業況のDI値は▲50ポイント以上と高くなっている。一方、売上、採算はそれほど大きく悪化はしていないが、DI値は売上で▲60ポイント以上、採算で▲50ポイント以上と高くなっている。

**(不動産・その他)**

全項目改善しており、特に従業員は10ポイント以上改善しているが、人手過剰が高くなっている。DI値は売上、採算、業況で依然として▲50ポイント以上と高くなっている。

**【質問 A】 9月と比較した10月～12月の先行き見通しについて**

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	6	30	58	94	▲ 55.3	▲52.9	▲2.4
	採算	5	39	50	94	▲ 47.9	▲43.7	▲4.2
	仕入単価	2	72	18	92	▲ 17.4	▲26.7	9.3
	従業員	16	61	16	93	0.0	0.0	0.0
	業況	5	42	47	94	▲ 44.7	▲54.0	9.3
	資金繰り	7	60	27	94	▲ 21.3	▲27.6	6.3
建設・建築業	売上	1	9	10	20	▲ 45.0	▲57.1	12.1
	採算	2	8	10	20	▲ 40.0	▲57.1	17.1
	仕入単価	0	17	2	19	▲ 10.5	▲19.0	8.5
	従業員	5	13	2	20	15.0	0.0	▲15.0
	業況	1	11	8	20	▲ 35.0	▲47.6	12.6
	資金繰り	2	14	4	20	▲ 10.0	▲38.1	28.1
製造業	売上	0	6	12	18	▲ 66.7	▲42.9	▲23.8
	採算	0	6	12	18	▲ 66.7	▲38.1	▲28.6
	仕入単価	0	14	4	18	▲ 22.2	▲33.3	11.1
	従業員	3	11	4	18	▲ 5.6	▲19.0	▲13.4
	業況	0	5	13	18	▲ 72.2	▲52.4	▲19.8
	資金繰り	0	11	7	18	▲ 38.9	▲23.8	▲15.1
卸・小売業	売上	2	3	14	19	▲ 63.2	▲64.3	1.1
	採算	1	6	12	19	▲ 57.9	▲35.7	▲22.2
	仕入単価	2	14	3	19	▲ 5.3	▲21.4	16.1
	従業員	3	13	3	19	0.0	14.3	14.3
	業況	3	8	8	19	▲ 26.3	▲71.4	45.1
	資金繰り	1	13	5	19	▲ 21.1	▲28.6	7.5
飲食・サービス業	売上	2	6	15	23	▲ 56.5	▲42.9	▲13.6
	採算	1	11	11	23	▲ 43.5	▲28.6	▲14.9
	仕入単価	0	18	5	23	▲ 21.7	▲21.4	▲0.3
	従業員	5	13	5	23	0.0	14.3	14.3
	業況	0	10	13	23	▲ 56.5	▲50.0	▲6.5
	資金繰り	4	11	8	23	▲ 17.4	▲21.4	4.0
不動産・その他	売上	1	6	7	14	▲ 42.9	▲58.8	15.9
	採算	1	8	5	14	▲ 28.6	▲52.9	24.3
	仕入単価	0	9	4	13	▲ 30.8	▲37.5	6.7
	従業員	0	11	2	13	▲ 15.4	0.0	15.4
	業況	1	8	5	14	▲ 28.6	▲52.9	24.3
	資金繰り	0	11	3	14	▲ 21.4	▲23.5	2.1

**(全体)**

売上と採算以外は改善する見通しであるが、特に従業員は不足・過剰もなく適正である見通しである。しかしながら、業況は依然としてDI値は▲40ポイント以上と高くなっている。一方、売上、採算は若干悪化する見通しであり、DI値は依然として▲50ポイント前後と高くなっている。

**(建設・建築業)**

従業員以外は改善する見通しであり、特に資金繰りは30ポイント近く改善している。DI値は依然として売上、採算で▲40ポイント以上、業況で▲30ポイント以上と高くなっている。一方、従業員はDI値がプラスに転じ、全業種のなかで唯一人手不足になる見通しである。

**(製造業)**

仕入単価以外は悪化する見通しであり、特に売上、採算はDI値が20ポイント以上悪化している。DI値も売上、採算が▲60ポイント以上、業況が▲70ポイント以上、資金繰りも▲40ポイント近くと非常に高くなっている。一方、仕入単価は10ポイント以上改善する見通しである。

**(卸・小売業)**

採算以外は改善する見通しであり、特に業況は40ポイント以上と大幅に改善する見通しである。しかしながら、売上は依然としてDI値が▲60ポイント以上と大幅に高くなっている。一方、採算は20ポイント以上悪化し、DI値も▲60ポイント近くと高くなっている。

**(飲食・サービス業)**

従業員、資金繰り以外は悪化する見通しであり、売上、業況は依然としてDI値が▲50ポイント以上と高くなっており、採算も▲40ポイント以上と高くなっている。一方、従業員では10ポイント以上改善している。

**(不動産・その他)**

すべての項目において改善する見通しであり、特に採算、業況は20ポイント以上、売上、従業員は10ポイント以上と大きく改善している。しかしながら、売上は依然としてDI値▲40ポイント以上と高くなっている。従業員のDI値はマイナスに転じ、従業員過剰となる見通しである。